## 平成28年度 嘉瀬川・六角川・松浦川学識者懇談会

かせがわ

# 嘉瀬川総合水系 環境整備事業

① 事業採択後3年経過して未着工の事業

② 事業採択後5年経過して継続中の事業

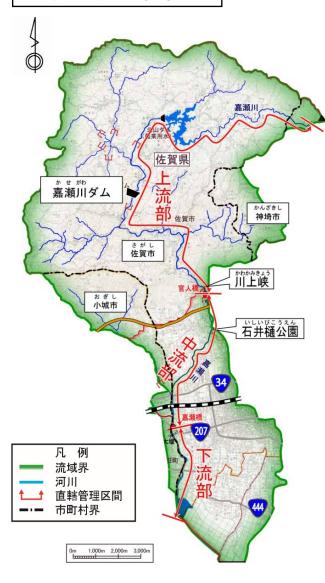
③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業

- ④ 再評価実施後3年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業



## 1. 嘉瀬川流域の概要 [嘉瀬川の概要と特徴]

### 嘉瀬川流域概要図



## ■各区間の特徴

#### 【嘉瀬川上流部】

- 人工林を主体とした山間渓流となっており、河床には巨石や玉石が多く、アユやカワガラスなどが生息している。
- 平成24年3月、有明海から約30km上流に嘉瀬川ダムが完成した。ダム周辺は多種多様な動植物が見られる自然環境豊かな地域となっている。
- 北山ダム湖周辺でのキャンプや渓流釣り、河川公園等で水遊びを楽しむ姿が多く見られる。
- <u>川上峡付近は九州の嵐山と称される景観</u>を有している。

#### 【嘉瀬川中流部】

- 佐賀平野を流下し広い河川敷と狭い低水路からなり嘉瀬川大堰などによる湛水区間が大半 を占める。
- 復元された歴史的取水施設石井樋のある石井樋公園をはじめ、毎年11月初旬には佐賀イン ターナショナルバルーンフェスタの開催など**河川利用が盛ん**に行われている。
- ◆河岸には尼寺林(水害防備林)に代表されるマダケやモウソウチク、メダケ、ヤナギ類な どの<u>河畔林が存在</u>している。

#### 【嘉瀬川下流部】

- 有明海特有の大きな干満差の影響を受け広大な干潟が広がっており、水際にはヨシ原が繁茂し、干潟にはムツゴロウ、シオマネキやハラグクレチゴガニ、シギ、チドリ類が生息し、 ヨシ原にはオオヨシキリが生息している。
- ●旧河道部に整備された「佐賀県立森林公園」は地域住民の重要なレクリェーションスポットとなっており、堤防天端は佐賀環状自転車道としての利用も行われている。

嘉瀬川の概要	流域面積	368km <sup>2</sup>		
	幹川流路延長	57km		
	流域内市町村	3市(佐賀市・小城市・神埼市)		
	流域内人口	約12.5万人(平成22年 国勢調査)		

## 1. 嘉瀬川流域の概要 [嘉瀬川の利用状況]

## <嘉瀬川流域の利用状況>

- ◆ 嘉瀬川流域は、佐賀県中央部に位置し、流域内には県庁所在地である佐賀市があり、沿川にはJR長崎本線、九州横断自動車道、国道34号線などの基幹交通施設に加え、有明海沿岸道路、整備中である佐賀唐津道路等、交通の要衝となっており、多くの人々が行き交っている。
- ◆ 嘉瀬川ダムでは、マラソン大会やダム湖面を利用したボート競技、 <u>嘉瀬川ダム感謝祭等の様々なイベント</u>や、<u>湿性地を利用した野外学</u> <u>習</u>等を実施しており、地域住民の交流の場となっている。また、<u>ダ</u> <u>ムの駅やパークゴルフ場などの周辺施設</u>はオープン以来多くの来訪 者でにぎわいを見せている。
- ◆ 河床の巨石や玉石と周辺の山林が渓流景観を創出している上流部は、 <u>キャンプや水遊び、渓流釣りを楽しむ人が多く</u>見られる。又、九州 の嵐山と称される<u>川上峡は景勝地として知られ、多くの観光客</u>が訪れている。
- ◆ 中流部は、毎年11月初旬に100万人の観光客を集めて行われる佐賀 インターナショナルバルーンフェスタをはじめ、<u>復元された歴史的</u> 取水施設石井樋、公園、運動場、左右岸に広がるゴルフ場など、<u>河</u> 川敷は一年を通して盛んに利用されている。石井樋地区に位置する 「さが水ものがたり館」は人々が川に親しみ、憩い、集える交流拠 点として、平成28年7月には来館者20万人を達成し、多くの人が訪れている。
- ◆ 下流部の旧河道部には、芝生広場や野鳥観察所、野球場、アーチェリー場などの施設を設けた「佐賀県立森林公園」があり、<u>地域住民の重要なレクリエーションスポット</u>となっている。



嘉瀬川ダム湖(ボート利用)



嘉瀬川ダム湖周辺(ダムの駅)



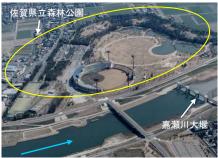
嘉瀬川上流部(川上峡)



嘉瀬川中流部(石井樋公園)



嘉瀬川中流部 (佐賀インターナショナル バルーンフェスタ)



嘉瀬川下流部 (佐賀県立森林公園)

## 1. 嘉瀬川流域の概要 [嘉瀬川水系の目標]

## <河川環境の整備と保全に関する目標>(嘉瀬川水系河川整備計画抜粋)

◆ 治水・利水との調和を図りつつ、多様な動植物が生息・生育する豊かな自然環境を 次世代に引き継ぐよう、<u>瀬・淵を有する流れや水際環境、上下流の縦断的な連続性</u> を有する生物の生息・生育環境の保全・再生を目指すこととしている。

- ◆ 嘉瀬川と流域の人々との歴史的・文化的なつながりを踏まえ、**嘉瀬川の流れが織り** 成す良好な河川景観の保全、形成を目指すこととしている。
- ◆ 川上峡や石井樋、尼寺林等の歴史的、文化的な価値ある資源・遺構については、<u>治</u> 水・環境機能のバランスの取れた整備・保全を行うものとしている。
- ◆ 河川空間の利用に関しては、<u>秩序ある利用を維持し、河川の持つ多面的な機能が更</u> に発揮されるよう努めることとしている。

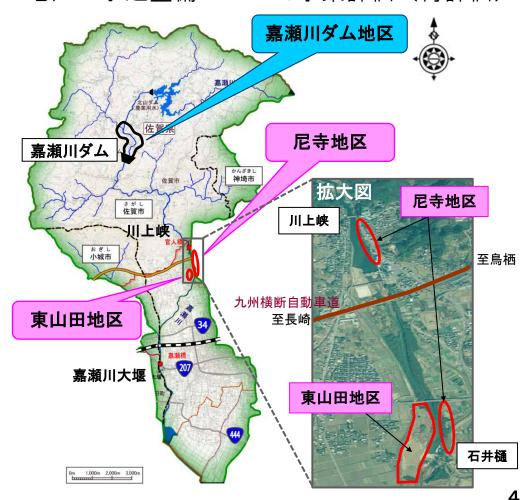
## 1. 嘉瀬川流域の概要 [嘉瀬川総合水系環境整備事業の概要]

## <事業評価(再評価)対象事業の概要>

今回は、事業が完了している東山田地区の水辺整備、現在事業を継続中の尼寺地区の水辺整備、新たに整備予定の嘉瀬川ダム地区の水辺整備について事業評価(再評価)

に諮るものである。

区分	箇所名	事業期間	
水辺整備	東山田地区	  平成19年度 	
水辺整備	尼寺地区	平成25年度 ~平成31年度	
水辺整備	<sub>ゕせがゎ</sub> 嘉瀬川ダム地区	平成30年度 ~平成39年度	
嘉瀬川総合	水系環境整備事業	平成19年度 ~平成39年度	



## 1. 嘉瀬川流域の概要 〔完了箇所〕

## <完了箇所の概要(東山田地区)>

- ◆ 高水敷の整備により、<u>サッカーや野球、グランドゴルフ、水辺ではカヌーなど、</u> 安全な利用が可能となったことから、多くの人々が利用しており、事業の効果は 発現している。整備後から9年程度経過しているが、現在でも良好な利用状況で あり改善措置の必要性はないものと考えられる。
- ◆ 整備後は地域住民が中心となり草刈りやゴミ拾いが行われており、引き続き適切な維持管理に努めていく。
- ◆ 事業実施による周辺環境の変化に関して問題及び指摘は特にない。また、社会経済情勢についても大きな変化はみられない。



#### 【概要】

位 置	嘉瀬川13k800~14k600付近(右岸)		
事業区分	水辺整備		
主な整備内容	高水敷整正、管理用通路 階段護岸		
事業費	0.7億円		
事業期間	平成19年度		

#### 【東山田地区の利用状況】

- ◆ 週に3回程度、30人を超える人々が、グランドゴルフ を楽しんでいる。
- ◆ 週末は、サッカーや野球等により利用されている。
- ◆ 日常的に、散策による利用がみられる。

#### 【整備後の利用状況】









## <継続箇所の概要(尼寺地区)>

### (1)事業の必要性等

- ◆尼寺地区は、歴史的利水施設を復元・整備した石井樋公園や地域の風物詩である川上峡のこいのぼりの吹流しを楽しめる地区である。その水辺をつなぐネットワークが完成し、公園を散策・ジョギングする人々や川上峡に面する水辺を散策する人々の利用が見られる。
- ◆整備が完了したことから、整備効果の発現状況を把握する必要がある。







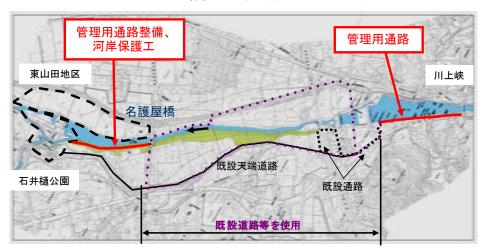




整備完了後の利用状況

## (2) 事業の概要・目的

◆石井樋公園周辺と川上峡周辺を水辺のネットワークでつなぐとともに、河川利用上の安全性の向上、河川巡視・河川管理の円滑化を図るため、管理用通路や護岸(階段)等を整備した。現在、整備効果を確認するためにモニタリング調査を実施している。



#### 【工程表】

	主な工種	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
石井樋地区								
	伐竹							
	管理用通路							
川上地区								
	管理用通路							
Ŧ:	ニタリング調査							

#### 【概要】

位 置	嘉瀬川14k200~16k600付近(左岸)
事業区分	水辺整備
主な整備内容	管理用通路、モニタリング調査等
事業費	2.6億円
事業期間	平成25年度~平成31年度
整備完了年	平成26年度





整備後の利用状況

## (3)事業の推進体制

- ◆平成25年3月に地域住民、佐賀市、佐賀県、国土交通省連携のもと、「かわまちづくり計画書」が策定され、地域団体が中心となった活発な利活用や佐賀市が中心となった維持管理が行われており、引き続き事業の推進体制が整っている。
- ◆現在は、近隣住民の散策やジョギングルートとしての利用や、「さが水ものがたり館」主催によるイベント、また、JR九州のウォーキングコースにも設定されているなど、<u>今後も地域が中</u>心となった活発な利活用が見込まれる。



石井樋公園周辺のウォーキングコース

※出典:JR九州 佐賀駅



維持管理(竹伐採)

## < 今回新たな整備箇所の概要(嘉瀬川ダム地区)>

### (1)事業の必要性等

- ◆ ダム湖面を利用した<u>ボート競技等の開催</u>や、湿性地を利用した<u>野外学習など多様なイベントが年間を通して開催されている</u>が、段差等が生じ、利用しづらい状況にあり、安全に安心して利用できる整備が望まれている。
- ◆また、水源地域ビジョンの取り組み方針において、「人々が集うふるさとづくり」として、湖面利用・施設利用の取り組み、「美しいふるさとづくり」として、自然環境の保全・活用が掲げられていることから、地域、自治体、国が連携して推進している。
- ◆今後も、ボート競技の会場としての利用や野外学習としての利用が見込まれている。







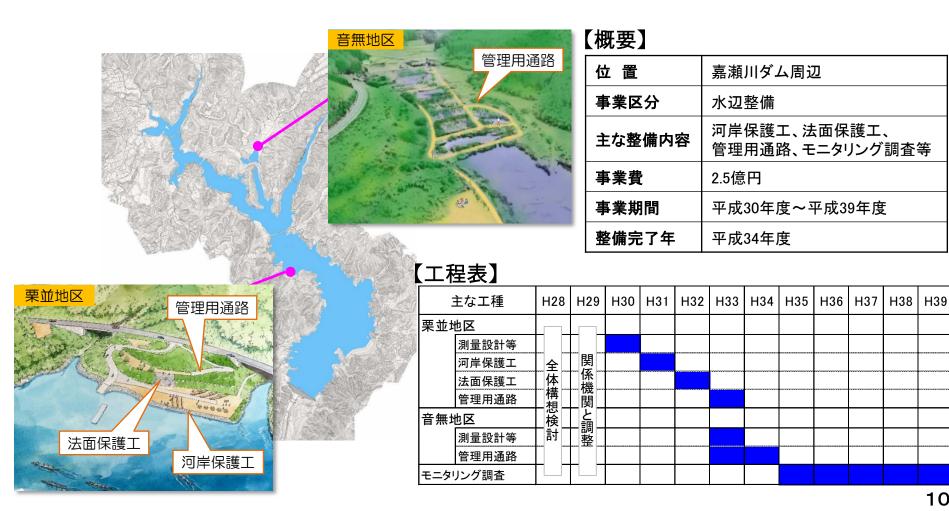






### (2)事業の概要・目的

◆佐賀市の進めるまちづくりの取り組みと連携しながら、利用者の安全性の向上、巡視・管理の 円滑化を図るため、管理用通路、河岸保護工、法面保護工等の整備を行う。

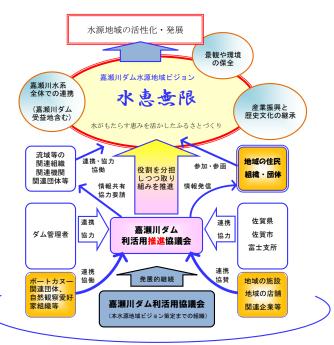


## (3)事業の推進体制

- ◆平成24年4月から、地域住民、各種団体、佐賀県、佐賀市を含む行政機関で構成される「嘉瀬川ダム利活用協議会」(準備会含む)を設立し、平成25年3月に水源地域ビジョンを策定した。**昨年度までに14回協議会を開催し、協議を進めている。**
- ◆水源地域ビジョンにおいて「水源地域の景観保全」に取り組んでおり、地域が主体となった湖岸周辺の除草・清掃活動等の維持管理が実践されている。

◆本年度も、「嘉瀬川ダム利活用推進協議会」により、地域活性化に向けた取り組みについて議論されており、

その中で、<u>「かわまちづくり」の検討を進めている</u>ところである。



#### 【協議会の経過一覧】

平成24年4月25日 平成24年6月5日 平成24年7月31日 平成24年10月1日 平成25年2月5日 平成25年3月21日 平成25年6月17日 平成25年8月22日 平成25年12月20日 平成26年3月17日 平成26年5月30日 平成26年11月11日 平成27年4月20日 平成27年4月20日 平成27年9月29日 平成28年6月9日

第一回嘉瀬川ダム利活用協議会準備会第二回嘉瀬川ダム利活用協議会準備会第三回嘉瀬川ダム利活用協議会準備会第一回嘉瀬川ダム利活用協議会第二回嘉瀬川ダム利活用協議会第三回嘉瀬川ダム利活用協議会(準備会)嘉瀬川ダム利活用推進協議会第1回嘉瀬川ダム利活用推進協議会第3回嘉瀬川ダム利活用推進協議会第3回嘉瀬川ダム利活用推進協議会第5回嘉瀬川ダム利活用推進協議会第5回嘉瀬川ダム利活用推進協議会第5回嘉瀬川ダム利活用推進協議会第6回嘉瀬川ダム利活用推進協議会第6回嘉瀬川ダム利活用推進協議会第6回嘉瀬川ダム利活用推進協議会第7回嘉瀬川ダム利活用推進協議会第7回嘉瀬川ダム利活用推進協議会



嘉瀬川ダム利活用推進協議会



清掃活動状況

# 3. 前回評価時からの変化

項目	前回評価時 (平成25年度)		
総事業費	<u>約3.3億円</u> 東山田地区: 0.7億円 尼寺地区: 2.6億円	<u>約5.8億円</u> 東山田地区: 0.7億円 尼寺地区: 2.6億円 嘉瀬川ダム地区: 2.5億円	「嘉瀬川ダム地区」の追加
事業完了年	平成31年度	平成39年度	
B/C	7.4	10.1	
B(便益)	32.4億円	72.0億円	
C(費用)	4.4億円	7.2億円	

# 4. 事業の投資効果 (費用対効果等)

### <費用対効果等>

事業区分		事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)	B/C
全事業		5.8億円	_	72.0億円	7.2億円	10.1
	完了箇所(水辺整備) 東山田地区	0.7億円	高水敷整正、管理用通路、階段護岸	9.7億円	1.9億円	5.2
	継続箇所(水辺整備) 尼寺地区	2.6億円	   管理用通路、河岸保護工、モニタリング調査等 	14.5億円	2.9億円	4.9
	新たな整備箇所(水辺整備) 嘉瀬川ダム地区	2.5億円	管理用通路、法面保護工、河岸保護工 モニタリング調査等	47.8億円	2.4億円	20.3

<sup>※</sup> B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後 50年分を足し合わせることにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせることにより算出する。

	アンケート 実施時期	アンケート 手法	アンケート 配布数	有効 回答数	集計範囲	集計 世帯数	支払い意志額 (円/月・世帯)
東山田地区	平成22年度	郵便	1,040票	191	W 47 401 PP -	13,564	196円
尼寺地区	平成25年度	郵便	1,600票	193	半径10km圏内	15,436	337円
嘉瀬川ダム地区	平成28年度	郵便※	2,000票	394	半径20km圏内 佐賀県市町	89,139	263円

<sup>※</sup> 嘉瀬川ダム地区は、嘉瀬川ダムから半径20km圏内の佐賀市かつ嘉瀬川流域内を対象とした郵便アンケート(2,000票配布)、及び嘉瀬川ダムから半径20km圏内の佐賀県内の4市 (佐賀市、神埼市、小城市、多久市)を対象としたWebアンケートを併用してアンケート調査を実施。

## 5. 事業の進捗の見込み・コスト縮減や代替案の可能性

### (1) 今後の事業展開

- ◆尼寺地区では、さが水ものがたり館を拠点としたイベント開催等、今後も利活用が期待される ことから、モニタリング調査等により、効果発現状況について確認を行っている。
- ◆嘉瀬川ダム地区においては、今後も地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、<u>平成30年度に事業に着手し、平成34年度に整備を完成させる予定である。平成35年度以降は、モニタリング調査等を実施し、平成39年度に完了予定である。</u>

### (2) 今後の事業の進捗の見込み

◆嘉瀬川ダム地区では、引き続き、水源地域ビジョンを推進していくための、<u>「嘉瀬川ダム利活</u> <u>用推進協議会」の開催や野外学習やボート大会など継続的な利用</u>が予定されており、<u>順調な事業進捗が見込まれる。</u>

### (3) 事業手法、施設規模等の見直しの可能性

◆嘉瀬川ダム地区の整備内容については、「嘉瀬川ダム利活用推進協議会」で議論を重ね、<u>河川</u> 管理面、河川利用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。

## (4)コスト縮減の方策

◆近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、 事業を進めていく方針である。

## 6. 対応方針(原案)(案)

- ◆ 佐賀市では、まちづくりの重点プロジェクトの一つに<u>「森と湖に囲まれた交流と満たのまちづくり」</u>を掲げ、市民の身近な娯楽や憩いの場としての水辺空間を整備していくこととしており、嘉瀬川ダム地区では、安全に、安心して利用できる水辺空間の整備が望まれている。このため、管理用通路、河岸保護工、法面保護工等の整備を行うものである。尼寺地区については、整備完了後の効果発現状況について引き続きモニタリング調査を行うものである。
- ◆ 地域住民、各種団体、行政機関で構成される「嘉瀬川ダム利活用協議会」が平成 24年の設立当時から継続的に開催し、整備や利活用、維持管理等、地域活性化に 向けた活発な議論を行っており、**地域の協力体制が整っている**。
- ◆ 費用対効果 (B/C) については、十分高い値である。

以上より、<u>引き続き事業を継続することとしたい。</u>